

編集後記

本17号では、第9回日本プラーヌクスツェレ研究会で報告された渡真利紘一さん、鈴木和隆さん、日詰一幸教授に寄稿していただいた。日本版プラーヌクスツェレといわれる「市民討議会」が日本の各地で急速に普及しているが、センターも研究会の報告を毎回掲載し、その実施を援助してきた。

国政レベルでは政権交代が起こり、政・官関係の見直しやマニフェストの実施に伴う議論が大きく起こっている。しかし、民主主義の問い直しとして90年代より欧米で論じられている「市民討議」の意義について、日本ではまだ取り上げられることが少ない。本号が民主主義の問い直しの議論に一石を投ずることができれば、幸いである。